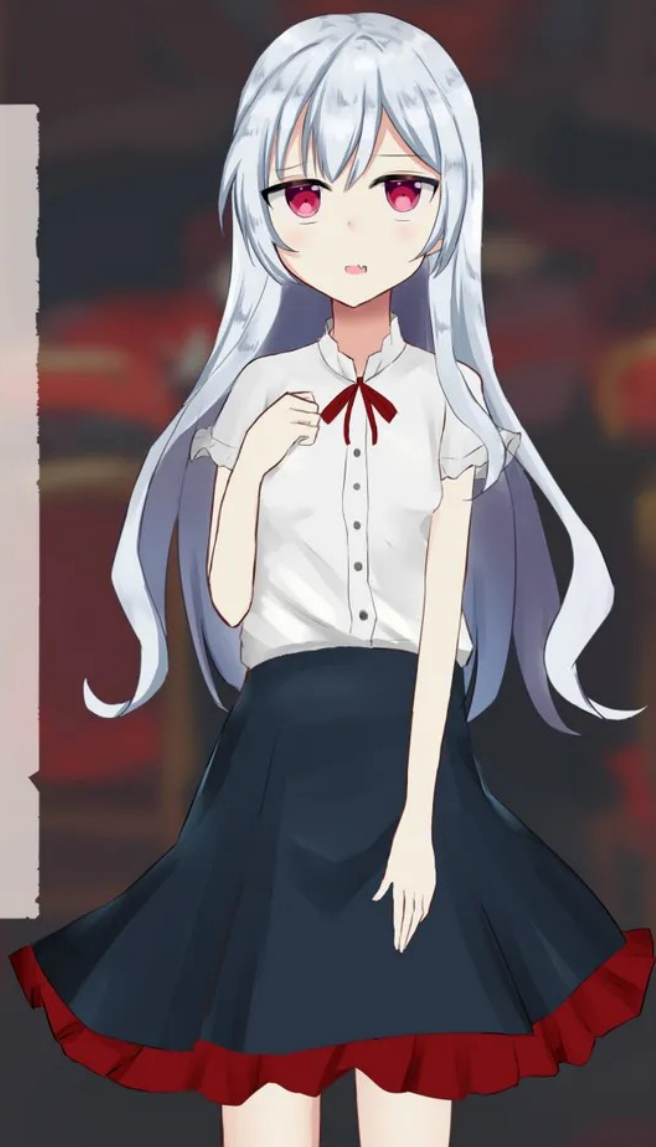




人里離れた山の中
古城はひっそりとそびえ立っていた
長らく俗世から切り離され
人々の記憶から忘れ去られたお城

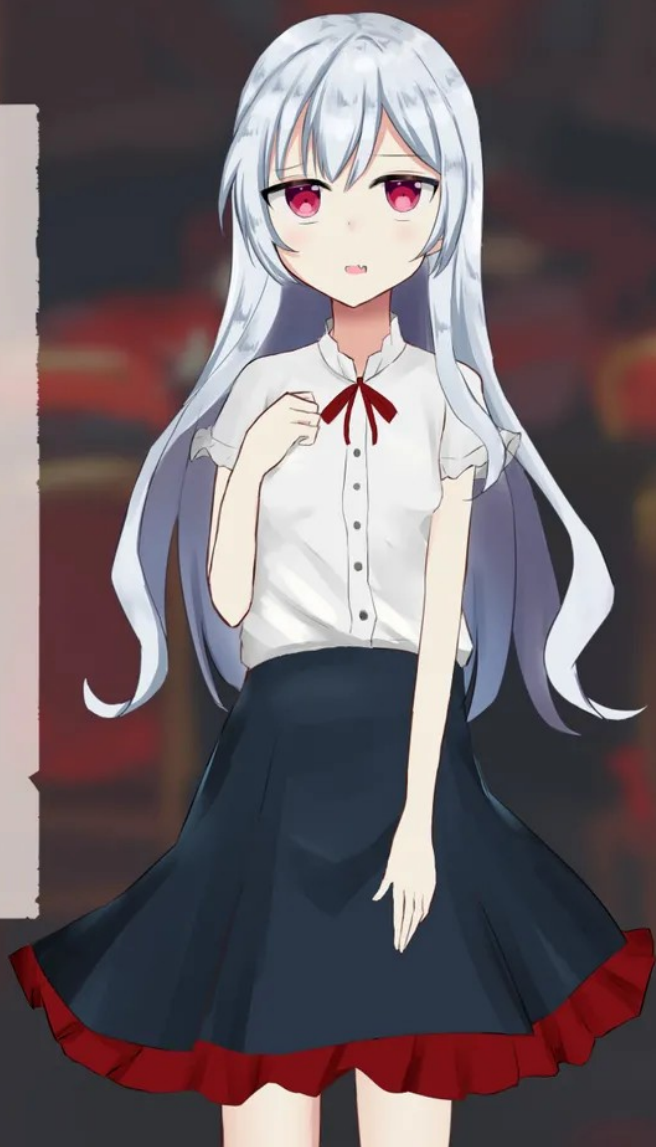
僕は下男としてこの城で働いている人間だ
城の近くで倒れていたらしい
どうやら頭を強く打ったよう
で記憶喪失だった
途方に暮れていたところ
紅い瞳の少女が現れた
僕はその吸血鬼を名乗る少女に助けられた
一目惚れだった

古城の主[△]セシル[▽]
真正正銘の吸血鬼だ
無口であり喋らない
彼女は基本的に面倒なことは人に任せて
自分は食べては寝ての繰り返し
そんな生活を送っていた



助けられて以来、「行く当てもないなら」と
この城で彼女のお世話をすることになった
やることといえば基本的に家事全般で
食事から入浴、性欲処理までも任されている
大変だけど、好きな人と一つ屋根の下なのだから
文句はない、ただ・・・

僕だって男なのだから性欲はそれなりにある
性処理の時間が終わると自室に戻り
自慰するまでがルーティーンになっていた
正直、セシル様と恋仲になって
セックスがしたい！



——チリン
鈴の音が鳴る
性処理の時間だ
急いでセシル様の自室に向かった



おまんこ

はやく

舐めて？



あっ

パンツ濡れてきた...

舐めて♡

舐めて♡

ほめ

ほめ



おまんこを前にして
なに突っ立ってるの？

勃ってるの？

やかましいです



なーんてね

いったふりでした

ええ…

クニだけじゃものたりないもん

おちんちんみせて？



初めて見た…
なんかぶにぶにしてる…

どんどん硬くなってきて？

ポロポロ…





なにこれ
いっぱいできてきた...

ぬるぬるしてる...

あふんちゅら...

体中べとべとできもちわるいから

お風呂入ってくる…

End